

1

先天性腎尿路異常 (小児腎臓科)

腎臓はお子様のからだの中で大切な仕事をたくさんしています。大切な仕事のひとつとして、からだの中のバランス（ホメオスタシスと言います）を維持する役割があり、からだの中の不要なものを尿から排泄し、逆に必要なものを尿から再吸収しています。

24時間365日休まずに腎臓が働いてくれているおかげで、私たちはからだのバランスを崩すことなく食べたり飲んだりすることができます。

先天性腎尿路異常は、あまり聞きなれない病気かもしれませんが、将来、大切なお子様の腎臓の元気がなくなる最大の原因とされています。ここでは、ぜひ保護者に知っていただきたい先天性腎尿路異常の話をします。

先天性腎尿路異常とは？

先天性腎尿路異常とは腎臓や尿の通り道（尿路と言います）の生まれつきの形態異常を包括した概念です。腎臓が小さい（低形成腎など）、尿路の通過障害がある（水腎症、後部尿道弁など）、膀胱に溜まった尿が腎臓に逆流している（膀胱尿管逆流、逆流性腎症）、などが含まれます。

先天性腎尿路異常を抱えているお子様は出生1,000人当たり3～6人いると言われています。

わが国では、子どもの腎機能が低下する原因として先天性腎

尿路異常が最多で、小児慢性腎臓病（腎機能がやや低下している状態）の約60%～70%、小児末期腎不全（腎機能低下が著明で腎移植や透析を要する状態）の約40%の原因が先天性腎尿路異常と報告されています。

どのようにして発見するの？

妊婦健康診査（妊婦健診）の胎児超音波検査、出生後の尿路感染症（主に便中の細菌が尿の出口から侵入してくることで生じる感染症）などが発見契機になります。その他、血液検査を受ける機会があった際に腎機能低下が判明し偶然発見されることもあります。

注意すべき点として、腎機能低下が進行するまでは尿検査では異常がみられないことが多く、学校検尿では早期には見つかりにくい病気とされています。

腎機能低下を未然に防ぐために、先天性腎尿路異常を早期に発見することはとても大切です。

熊本市では、生後3か月のお子様を対象に委託医療機関で3か月児健康診査（健診）を実施していますが、この市が行う健診とは別に、市内複数の小児科において、先生方のご厚意により無償で乳児健診腎臓超音波検査を長きに渡って実施してきたという歴史があります。

これは全国的にみて、とても稀なことであり、開業医の先生方のご尽力により長きにわたり質の高い医療をご提供いただいています。

見つかったときの対応について

先天性腎尿路異常が見つかったことで、不安になる保護者も少なくないと思いますが、早期に発見できたことで、適切な管理を早期から行うことができます。結果的に、将来にわたり、腎臓が元気でいられる可能性が広がります。また、水腎症や膀胱尿管逆流は自然経過で治ることもあります。熊本市内の小児腎臓専門施設と連携して、大切なお子様の腎臓を守っていきましょう。

伴 英樹

一口メモ

赤ちゃんの鼻づまり

赤ちゃんは本来鼻で呼吸をしています。ところが息が通る通路がせまくて、しかもたまった分泌物を外に出す仕組みが未熟なため、長い睡眠時間中鼻づまりで寝苦しくなったり、泣いたりして病院を訪れることが時々あります。

他の症状がない場合は、鼻水を吸い取る器具で鼻水を取ったり、上体を起こしたり綿棒を使って空気の通り道を確保されるだけで良いでしょう。また、冬場には湿度を保つように心掛けることも大切です。